

地域における文化財の一体的な保存と活用の方策 ～博物館・美術館を中心に～

文責：岩崎奈緒子

文化財の基本的な属性

- ・調査研究なしに「文化財」とはなりえない
＝「それは一体なんであるのか」がわからないものは「文化財」ではない
- ・保存・継承する不断の努力なしに、活用できる「文化財」は存在しない



文化財収蔵機関たる博物館・美術館の基本的機能

- ・調査と研究
- ・保存と管理
- ・展示と公開



以上の前提を踏まえ、

地域における文化財の一体的な保存と活用という課題において、博物館・美術館に期待される二つの役割

- I 文化財の静かな危機を救う救済者としての博物館＝「心の文化」を支える
- II 地域おこしの協力者としての博物館＝経済を支える文化財の維持

地域における文化財の一体的な保存と活用の方策

～博物館・美術館を中心に～

I 文化財の静かな危機を救う救済者としての博物館・美術館 ＝「心の文化」を支える

～求められていること

- ・収蔵機関としての機能の強化
- ・保存のための啓発活動の強化
- ・自治体の文化財保護課を核とした、地域の博物館等・文化財修理業者の連携によるセイフティネットの構築
(実践例)東日本大震災後の地域の博物館等による文化財レスキュー

～その背景とは

- ・限界集落等地域の衰退に伴う文化財散逸の危機
(例1)三重県立博物館による無住の寺の仏像レスキュー
→その1週間後に寺は盗難にあう
(例2)京都大学総合博物館による過疎の村の神社の大般若経の受け入れ
←宮司・氏子総代の高齢化により継承困難
- ・生活様式や経済構造の変化に伴う文化財散逸の危機
(例3)京都工芸繊維大学美術工芸資料館による、近代京都の繊維産業にかかる用具一式の受け入れ ←世代交代・廃業により継承困難

地域における文化財の一体的な保存と活用の方策

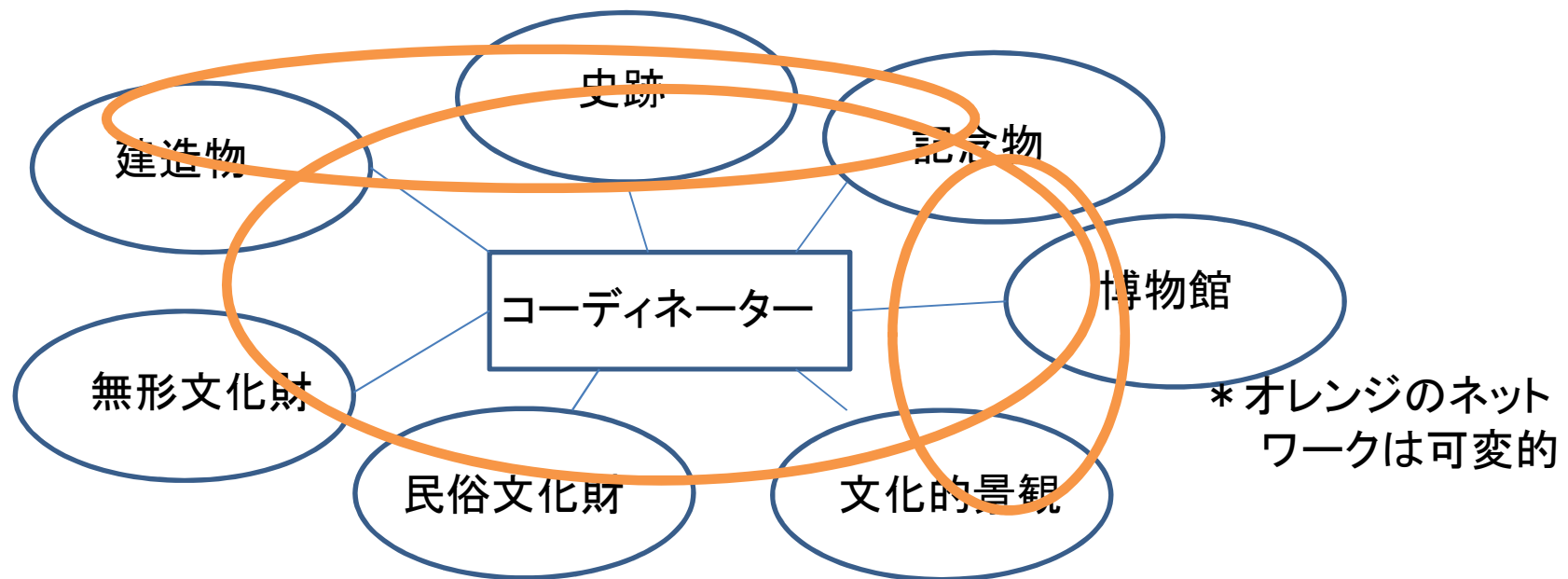
～博物館・美術館を中心に～

II 地域おこしの協力者としての博物館・美術館

＝地域経済を支える

～求められていること

- ・ダイバーシティ・マネジメントの導入



- ・コーディネーター(＝自治体・NPO・民間事業者)を中心に、それぞれの立場・専門性を活かしたネットワークを構築
- ・博物館等の常設展の開放＝外部者による活用の場を提供